

消防団たずね歩き

神戸市北消防団淡河支団

【わが町 淡河町】

淡河町は北区の北西部に位置し、人口は2200人あまりの田園地帯の町です。

江戸時代には湯乃山街道の宿場町として栄えており、町内には貴重な文化財や伝統行事が数多く残されています。また、神戸市内初の道の駅「淡河」があり、新鉄砲ユリやチューリップ、新鮮な野菜や十割そばを求めて日々たくさんの方々が賑わっています。

【消防団活動】

淡河支団は9分団15班で構成され、団員は現在226名（内、女性団員6名）おり、積載車15台、小型動力ポンプ15台が配備されています。

淡河町は各消防署から遠隔地となるため緊急出動時も到着に時間を要することからその間、消防団は被害の拡大を最小限に抑えるよう努力しています。



また枯草焼却時の指導・注意喚起や、日々の防火意識の向上のため各班が順に防火広報パトロールを行っています。

秋には秋季訓練を防災福祉コミュニティと合同で実施しています。消防団員としての基礎訓練、初期消火訓練、実火災を想定した延長・中継放水や福祉施設との連携訓練を消防署の支援のもと実施しています。

平成7年1月17日に起きた阪神・淡路大震災を機に、翌年から震災で犠牲になられた方々を追悼し、震災の記憶を忘れることなく伝えていこうと防災福祉コミュニティと協力して早朝からの緊急出動訓練、犠牲者への黙祷・シェイクアウト訓練を実施しており、今年で30回目となります。

最後に、自分たちの町・地域は自分たちで守っていくという精神で今後も地域の安全・安心のために活動してまいります。

（北消防団淡河支団 山田守男）



地域に根付いた消防団を目指しています！